

訓読教材

1

神様と世界 ①

FilJap 小学生部

生きていらっしゃる神様

■万物をつくられた神様

■見えない神様

■驚きの能力の神様

■万物をつくられた神様

私たちが住んでいるこの世界を観察してみましょう。高い山がそびえたっています。波がうねる青い海は、はてしなく広がっているでしょう。土や水の中には、いろいろな生き物が生きています。

春が来ると、野原に美しい花が咲き、秋になると、木の葉がそれぞれに美しい色にそまります。朝には必ず太陽が昇り、日が沈んだ後の夜空には、宝石のような星たちが、いつもさんらんと輝きます。あまりにも美しくて、精巧で、私たちは感嘆します。そして、首をかしげながら考えに浸ったりもします。このすべてのものは、自然に生まれたものなのでしょうか。それとも、誰かがついたものなのでしょうか。

聖書の創世記 1 章には、神様がこの世界をつくられたお話があります。いちばん初めに神様は、天と地とをつくりました。

「光あれ」と、神様は言われました。すると、光が生まれました。神様は光を見て喜ばれました。そして光と闇を分けて、光を昼とし、闇を夜と名づけました。これが、世界が



つくられた初めの日のことでした。

二日目に、神様は水と空とを分けられました。

三日目には、地の上の水を一つの所に集められて、「かわいた地が現れよ！」と言われると、陸地が現されました。

「これは良い地だ」

神様はそのように言わされて、その上に草と木が育つようにされました。



四日目には太陽と月に地を照らさせました。

五日目には魚と鳥をつくられました。

六日目には、すべての種類の動物をつくられました。

そして、「私に似せて、人をつくろう」と言われ、



人をつくられました。



神様は、これらすべてのことを終えられて、
七日目に安らかに休まれました。



■見えない神様

この世界には、神様は目に見えないので、神様は存在しないという人たちがいます。しかし世界には、目に見えないけれど、確かに存在しているものが少なくありません。花の香りを考えてみましょう。花は見ることができますが、花の香りは見ることができません。では花に香りがあるということはどうやって分かるのでしょうか？香りをかいでもなくとも、香りがあるということがどうやって分かるのでしょうか。蜂と蝶が、花に飛んでいく姿を見て、そのことが分かります。ですから、たとえ見えなくても、香りはあるのです。

風も同じです。はためく旗を見てみましょう。私たちは旗を見ることはできますが、風は見ることができません。しかし、旗がはためくのを見れば、風があるということが確かに分かります。

私たちは、両親が私たちを愛してくれていることを知っていますが、その愛を見ることはできません。また、私たちは眠りながら夢を見ます。次の日学校に行って、友だちに夢の話をします。そ

すると、友だちも自分の夢の話をしてくれます。しかし、たがいに夢を見せてあげることはできません。だからといって、夢がないとはいえません。

見て、聞いて、においをかい、さわってみると私たちは何があるのかを知ることができます。空を見上げれば、太陽があるということが分かり、ピアノの音を聞けば、ピアノが近くにあるということが分かります。お母さんが台所でなべ料理を作っていると、私たちはそのにおいだけでも、なべ料理があるということが分かります。目を隠して風船にふれてみれば、においをかいだりしなくとも、私たちはそれが風船であることが分かります。

しかし、神様についてはそのようにして知ることはできません。神様がどのような姿なのか、どこにいらっしゃるのか、どのくらいの間いらっしゃるのか、誰も知ることができません。科学技術は大きく発展しましたが、神様の姿を見られるようにしたり、神様の声が聞こえるようにすることはできないからです。それでは、神様がいらっしゃるということを、どのようにして知ることができるでしょうか。

私たちは、誰かの心を知ろうとするとき、その人の表情や言葉、行動などを観察します。心は見えませんが、表情や言葉や行動にその人の心が現れるからです。友だちが、笑顔でやさしい



声で話すと、友だちの気分が良いことが分かります。しかし、友だちが口もきけないで、顔を机にふせて泣いていると、友だちが心を痛めているとか、体の調子が悪いということが分かります。神様もまさにそれと同じです。神様は見えない心と同じです。ですから、この世界のものを通じて、その方がいらっしゃることを私たちは知ることができます。私たちの心と体が、たがいに離れることができないように、神様もやはり、ご自身のつくられた世界のすべてのものと離れることができません。神様は、私たちの心の中にも訪ねてこられ、共にいらっしゃいますし、空や海や木やすべての花たちの中に、いつまでも生きていらっしゃいます。



世界のすべてのものは、それぞれに美しく神秘的であり、たがいに助け合って生きています。太陽は明るい光で世界を包みこみます。お父さんとお母さんはたがいのために生きながら、私たちを産み育ててくださいます。私たちはまた、友だちとなかよく過ごします。このすべてのものが、本当にひとりでに生まれたのでしょうか。そうではありません。神様が愛と祝福の心で、この世界の

すべてのものをおつくりになったのです。そして、神様は、その中でいつまでも生きておられるのです。

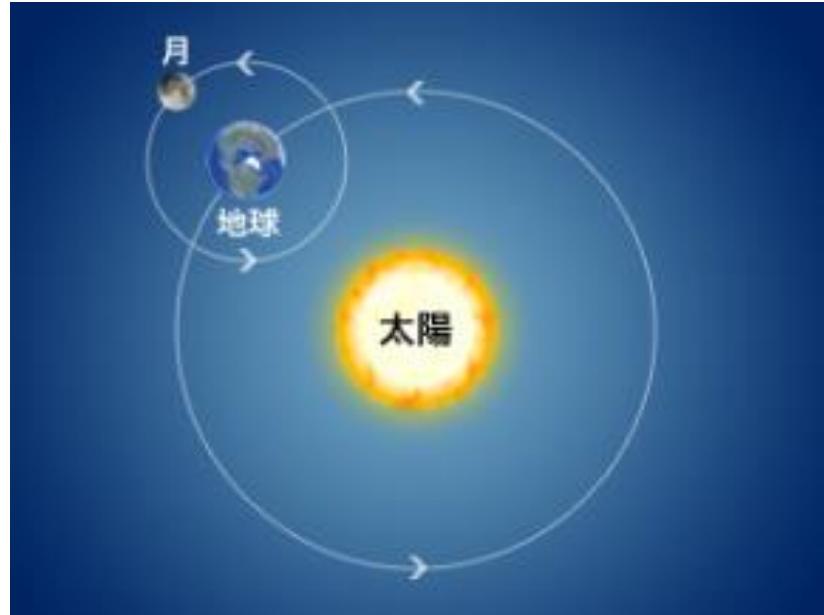
■驚きの能力の神様

私たちは、広い宇宙に住んでいます。この宇宙は、私たちが想像もできないくらいに大きいです。私たちが住んでいる地球も、広い宇宙の中では、一つの小さな星にすぎません。

太陽が昇ると朝になり、太陽が沈むと夜になります。夜には美しい星たちが輝きます。数え切れないくらい数多くの星たちは、それぞれ自分の位置を正確に守ります。月もやはり、一定の期間を守りながら、大きくなったり、小さくなたりします。海辺に行くと、満ち潮と引き潮がかわるがわるに訪れます。春が過ぎると夏が来て、夏が過ぎると秋が来て、秋が過ぎると冬が来ます。一度も間違えることがありません。このようなことを、むずかしい言葉で法則といい、原理ともいいます。



太陽と地球と月を考えてみましょう。地球は、太陽の周囲を一年に一回まわります。地球はまた、一日に自分を中心として一回転しています。月は、地球の周囲を一か月に一周します。自分勝手にまわるのではなく、時間を必ず守り、正確に動いているのです。神秘的でしょう。



このようなことが、はたして適当に成り立っているのでしょうか。そうではありません。このすべてのことは、一定の法則に従って成り立っています。

法則は、間違ったり、ずれることはありません。水は高い所から低い所に流れ、太陽が昇ったあとには必ず沈みます。この法則は、偶然には生まれません。世界のすべてのことが生きて動き、たがいに助け合うのは、神様が初めに世界をつくられたときの、その「ために生きる」心のゆえです。神様の心は見ることができませんが、世界のすべてのものが、ずれることなく調和をたもって生きていくように助けて下さいます。それがまさに神様の大きな能力です。



～終わり～

引用文献：
『はじめての
原理のおはなし』